

## 平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果と考察

### 1 調査の概要

#### (1) 目的

- ① 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各教育委員会、学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③ 各学校が児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

(2) 期日 平成26年6月～7月

(3) 対象 第5学年

- ・他の学年も、発達段階に応じて種目を選択しながら実施しました。
- ・ここでの全国との比較考察は、全国調査対象の5年生のみ行います。

#### (4) 内容

##### ①児童に対する調査（実技）

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20メートルシャトルラン、50メートル走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

※文部科学省が国民の体力・運動能力の現状を明らかにするために、平成11年度から実施している「新体力テスト」の8種目を実施する。

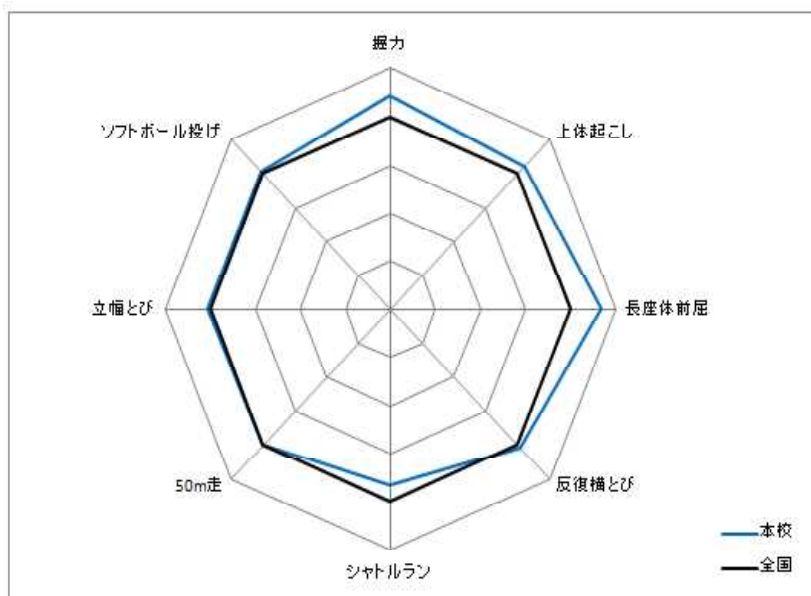
##### ②児童に対する調査（質問紙）

##### ③学校に対する調査

北海道教育委員会ホームページ「平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査調査結果のポイントについて」もご参照下さい。<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ktk/26zenkokutairyoku.htm>

## 2 実技の結果

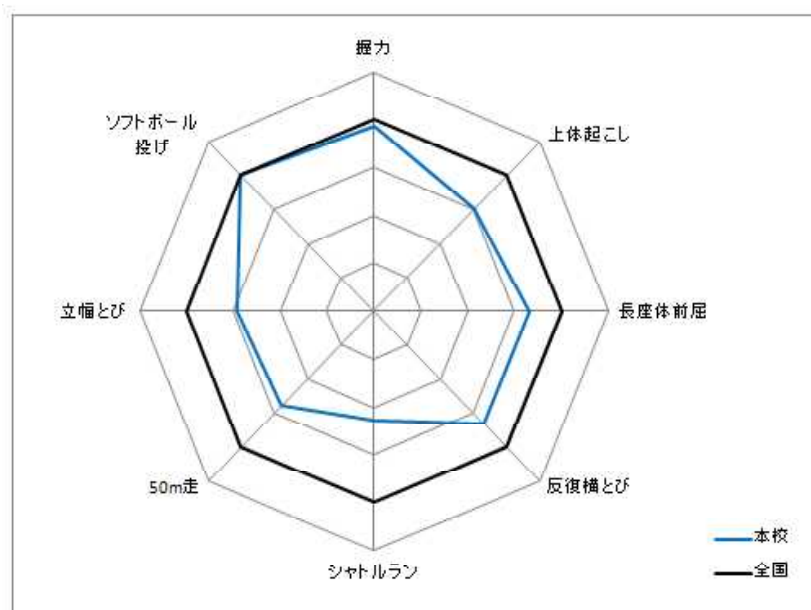
### (1) 男子（全国平均の得点値が黒線、本校の得点値が青線）



○ 「20mシヤトルラン」を除く全ての種目で、全国平均と同程度もしくは上回った。

○ 「握力」「上体起こし」「長座体前屈」では、特に優れた値を示している。

### (2) 女子（全国平均の得点値が黒線、本校の得点値が青線）



○ 「ソフトボール投げ」は全国平均と同程度であったが、その他の種目では全国平均を下回った。

○ 得点率が全国平均に達していない種目が多い。「20mシヤトルラン」では、特に差が大きかった。

### (3) 調査結果概観

- 全国平均と比較すると、本校児童の体力・運動能力は男女間で大きな差が見られる。
- 「ソフトボール投げ」は、男女ともに全国平均と同程度であった。
- 「20mシヤトルラン」では、女子の全国平均との差がかなり大きく、男子も若干下回っていた。

### 3 運動習慣等調査の結果

#### (1) 体格

- 男子は、身長・体重ともに全国平均を上回った。  
肥満傾向は、全国平均より若干多い。
- 女子は、身長は全国と同程度、体重は全国を若干上回った。  
肥満傾向、痩身傾向ともに、全国平均より若干多い。

#### (2) 児童質問紙より

- 「運動が好き」の設問に「好き」「やや好き」と答えた児童は全国平均より少なく、「ややきらい」と答えた児童は全国平均の2倍程度であった。  
その理由として、「小学校入学前から苦手だった」と答えた児童の割合が、全国平均よりかなり多かった。
- 「1週間の総運動時間」は全国平均より若干少なく、全道平均よりかなり少ない。曜日ごとの比較では、休日を含め全ての曜日で全国平均を大きく下回っている。
- 体育授業の種目・領域別で見ると、男子が高い関心を示しているのは「走・跳の運動」「表現運動」で、関心が低いのが「体づくり運動」「器械運動」であった。また、女子が高い関心を示しているのは「浮く・泳ぐ運動」「表現運動」で、関心が低いのは「器械運動」「走・跳の運動」であった。

### 4 体力・運動能力、運動習慣の改善に向けて

- (1) 調査結果の分析により、本校児童の体力・運動能力の課題を明らかにし、体力・運動能力や運動習慣等の向上に継続して取り組みます。
- (2) 引き続き「汗をかく体育授業」の充実に努めるとともに、それぞれの領域・種目に応じた指導方法を研修し、児童が意欲的に授業に臨み達成感を味わえるよう工夫します。
- (3) 体育的行事を利用し、児童の体育活動への興味を高めます。
- (4) 家庭や地域と連携して、家庭での生活習慣や体育活動の向上を促します。